

令和4年度
未踏的な地方の若手人材発掘育成支援事業
「AKATSUKIプロジェクト」
成果報告書

2024/03

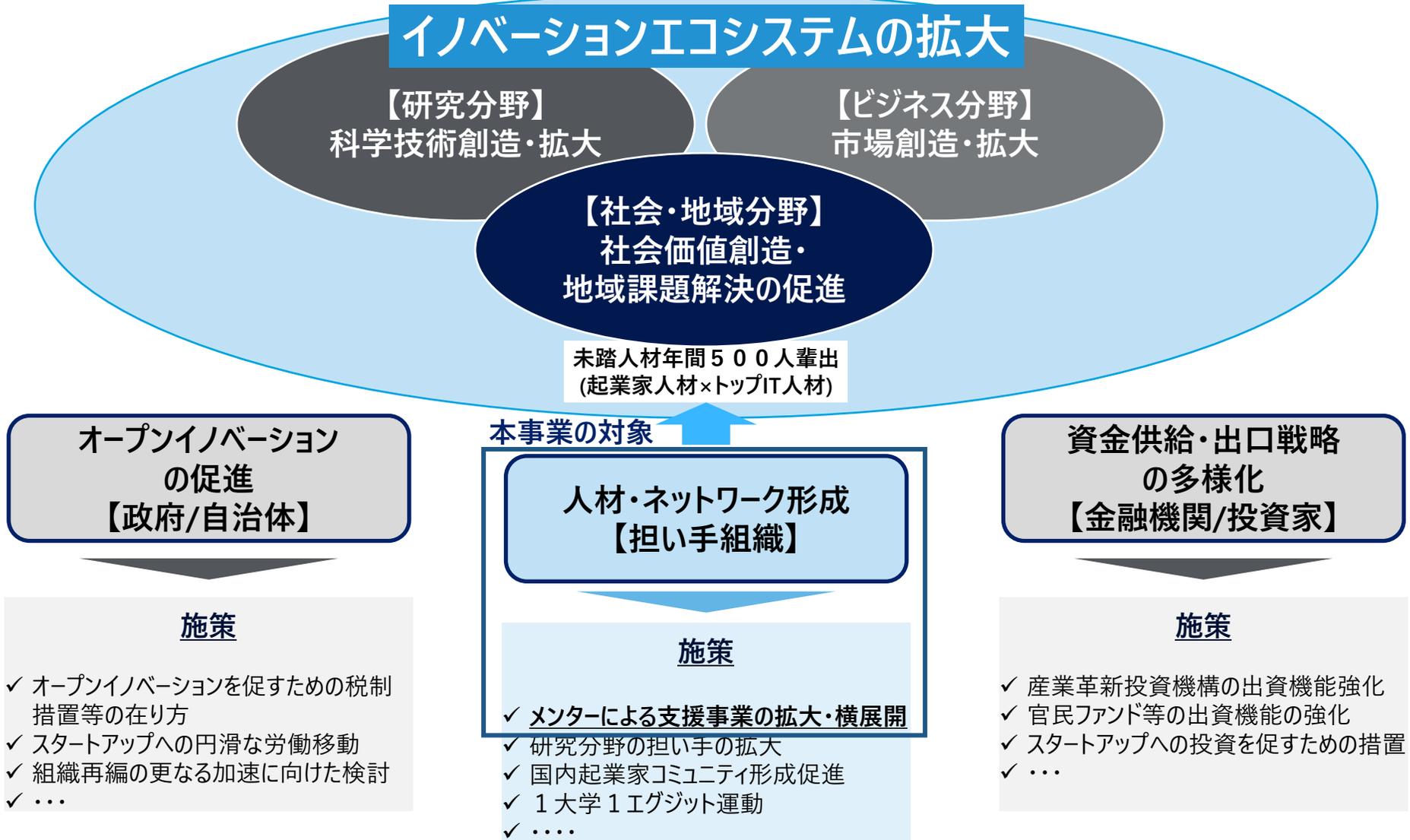
AKATSUKIプロジェクト事務局

本事業の位置づけ

<p>本事業の位置づけ</p>	<p>“新たな価値を創造する人材を育むAKATSUKIプロジェクト”</p> <p>全国各地の補助事業者が人材発掘・育成プログラムを様々なエリアで展開し、IT分野を中心に優れたアイデアや技術を持つ地方の若い人材を発掘・育成するためのプロジェクト</p>	
<p>プロジェクト全体運営</p>	<p>本年度は各地域での人材発掘・育成プログラム立上げを目的に、首都圏を除く、全国各地で26件の事業を採択し、助成・全体運営を実施</p> <p>各地域でイノベーションを起こす人材を発掘・育成し、日本全体としてのイノベーションエコシステムを形成することを目指し、全事業横断での交流・学びの場を運営</p>	
<p>人材発掘・育成事業</p>	<p>人材発掘</p>	<p>“才能に地域差はない”</p> <p>日本全国の才能を見出し、挑戦をしようと思える地域社会に</p>
	<p>人材育成</p>	<p>“ビジネスコンテストではなく、突出した奇才（大きな可能性）を育成”</p> <p>前人未到の領域に取り組む若手人材に対し、地域・社会での価値創造の実践とPM・メンター・コミュニティによる伴走支援で世界を変えるマインドセット・スキルを伸ばす</p>
	<p>人材輩出</p>	<p>“新たな価値を創造する人材を育むイノベーションコミュニティを各地域で形成”</p> <p>地域発で世界を変える、未踏IT事業への挑戦、地域での共創、社会課題解決に挑む同志がお互いを成長させ続ける未踏的なイノベーターのコミュニティを形成</p>
	<p>組織運営</p>	<p>“AKATSUKIプロジェクトとして人材発掘・育成プログラムのナレッジを共有財産化”</p> <p>各地域での信頼を形成するための広報、人材の発掘・育成、地域を超えた交流を支援</p>

本事業の目的・対象

■ 本事業は、イノベーションエコシステムの拡大において、第一の柱となる人材・ネットワーク形成を支援する事業に位置づけられる



本事業の概要

- AKATSUKIプロジェクトは、全国各地の補助事業者が人材発掘・育成プログラムを様々なエリアで展開し、IT分野を中心に優れたアイデアや技術を持つ地方の若い人材を発掘・育成するためのプロジェクトである

AKATSUKIプロジェクトとは

- AKATSUKIプロジェクトは、全国各地の補助事業者が人材発掘・育成プログラムを様々なエリアで展開し、IT分野を中心に優れたアイデアや技術を持つ地方の若い人材を発掘・育成するためのプロジェクト
- 各地域でイノベーションを起こす人材を発掘・育成し、新たな価値創造を実現することで、日本全体としてのイノベーションエコシステムを形成することを目指す
- 本プロジェクトでは公募に対し応募された団体の中から補助事業者を採択。補助事業者によるそれぞれの育成プロジェクトを補助することで、新たな若手人材の育成を支援

未踏事業から見る本事業の位置づけ

- 本事業は日本全体でのイノベーションエコシステム拡大のため、各地域で前人未到の分野を切り開く、突出したIT技術やアイデアを有する若手人材の発掘と、各地域でメンターの伴走支援を通じた育成を行う事業である

未踏事業

日本
全国版

**IPAが中心となり、日本全国から
新たな価値を創造するIT人材を育む**

「ITを駆使してイノベーションを創出することのできる独創的なアイデアと技術を有するとともに、これらを活用する優れた能力を持つ、突出した人材を発掘・育成」*1

目的

- ①日本を代表する各分野で活躍するPMが帯同**
②2000人以上の未踏修了生のコミュニティ
 ・2000年以降23年間続く歴史ある事業

特徴



未踏なアイデアを育てたい

- ・アイデアがある
- ・技術がある
- ・情熱がある

「独自性・革新性があり、社会的インパクトを与え、イノベーションを創出する可能性を秘めたプロジェクト実現しようとしている若い逸材」*2
 (未踏IT)

人材像

地方
地域版



AKATSUKI
プロジェクト

「AKATSUKI」

**地方・地域コンソーシアムから
新たな価値を創造するIT人材・起業家を育む**

未踏事業の人材発掘・育成プログラムを全国各地においても広く展開し、地域における若手人材の自律的・継続的な育成活動の面的拡大を目指す

- ①各地域ごとに異なる支援メニューを用意**
 ・2023年度地域横断も含め26事業者採択
②地域貢献・活性/地域から社会→世界へ

**地方発の未踏的なアイデアで
課題解決にも取り組みたい**



左記の未踏性を有するほか、地域や特定のコミュニティに対する貢献（課題解決、起業等）マインドを有する者

*1出典：IPA、「未踏事業について」、2024、<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/about.html>（参照2024-02-29）

*2出典：IPA、「未踏IT人材発掘・育成事業について」、2024、<https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/it/about.html>（参照2024-02-29）

補助事業者一覧

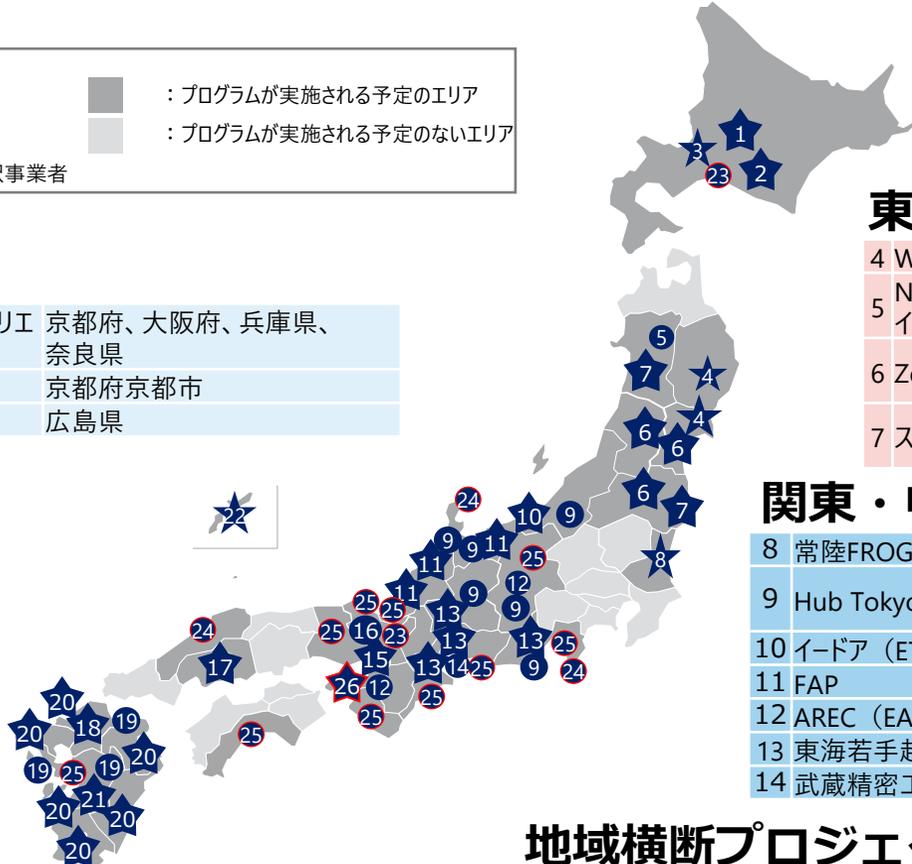
■ 33道府県から、本事業を実行する間接補助事業者を計26団体選定した

【凡例】

- : 採択事業者
- : 採択事業者（地域横断¹）
- ★ : 未踏関係者が関与する採択事業者
- : プログラムが実施される予定のエリア
- : プログラムが実施される予定のないエリア

近畿・中国地方

15	大阪産業局(関西テック・クリエター・チャレンジ)	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
16	taliki	京都府京都市
17	SIGNATE	広島県



北海道地方

1	新雪	北海道全域
2	ネットドア	北海道全域
3	Ezofrogs	北海道（札幌、旭川、北見、芽室、大空）

東北地方

4	Wasshoi Lab (MiTOHOKU)	岩手県、宮城県
5	NTT DXパートナー（秋田 若手人材発掘・育成イノベーションプログラム）	秋田県
6	Zero to one	宮城県、山形県、福島県
7	スパークル	秋田県秋田市、福島県会津若松市

関東・中部地方

8	常陸FROGS	茨城県全域
9	Hub Tokyo	新潟県、富山県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県
10	イードア (ETSUZAN)	新潟県
11	FAP	富山県、石川県、福井県
12	AREC (EACH EDGE)	長野県
13	東海若手起業塾実行委員会	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
14	武蔵精密工業	愛知県豊橋市、愛知県東三河地域

地域横断プロジェクト

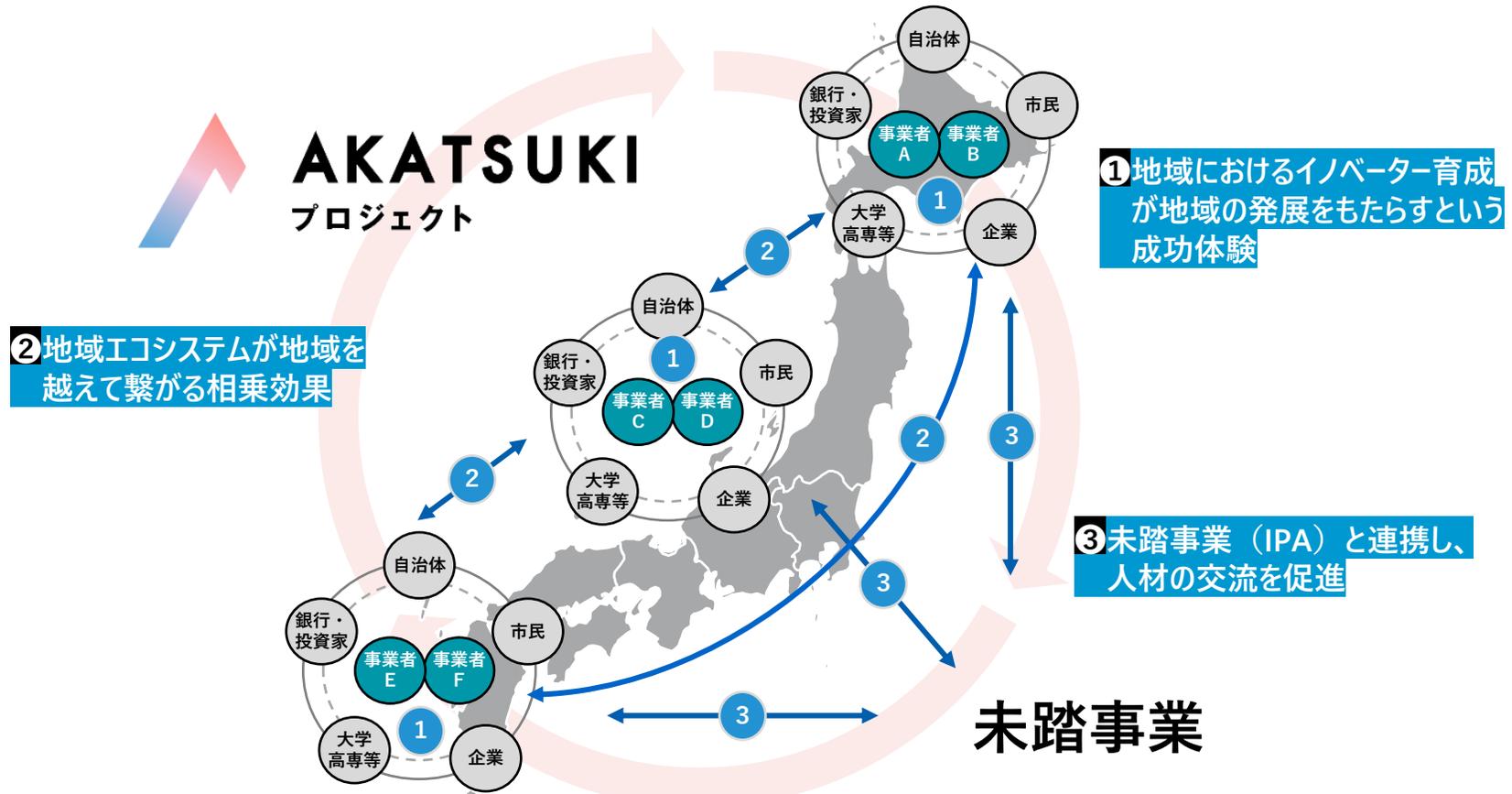
23	東京医科歯科大学 （医療DXイノベーション人材育成プログラム）	北海道札幌市、大阪府、兵庫県神戸市
24	サトヤマカイギ（サトヤマミライカイギ）	石川県、静岡県、島根県
25	ジャパンチャレンジャープロジェクト	三重県、愛知県、長野県、高知県、静岡県、京都府、兵庫県、和歌山県、熊本県、滋賀県
26	大阪大学(Osaka Web3 マスタークリエイター育成プロジェクト)	大阪府、大阪市、関西圏（佐賀県嬉野市）

九州・沖縄地方

18	産学連携機構九州(福岡未踏的人材発掘・育成コンソーシアム)	福岡県全域
19	JellyWare	福岡市、佐世保市、熊本市
20	未踏的女子GRITコンソーシアム(未踏的女子発掘プロジェクトGRIT)	九州全域 (福岡以外を特に強化)
21	熊本日日新聞社 (IPPO)	熊本県
22	FROGS	沖縄県

本事業の目指す姿

- 本事業では、各地域でイノベーションを起こす人材を発掘・育成し、新たな事業創造を実現することで、日本全体としてのイノベーションエコシステムを形成する姿を目指す

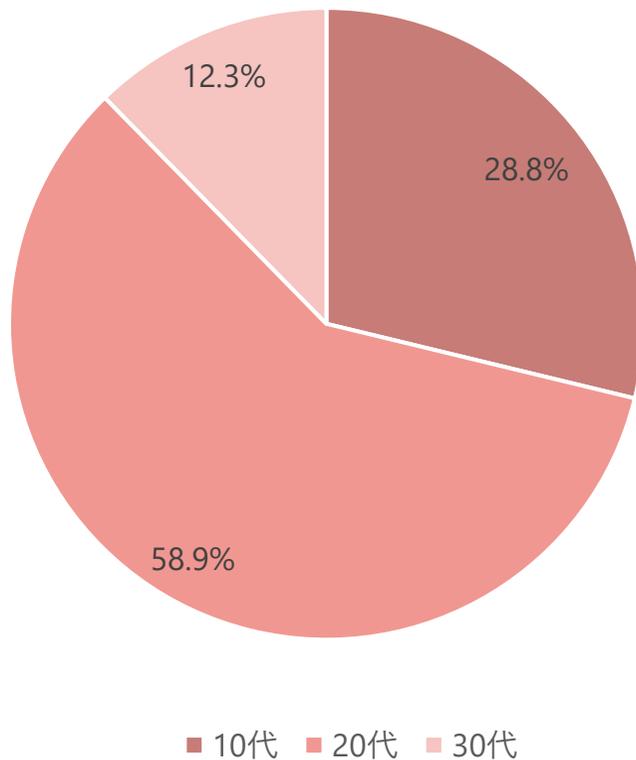


地域のイノベーションエコシステムが全国規模で有機的に結びつく世界の実現

イノベーターの年齢・属性分布

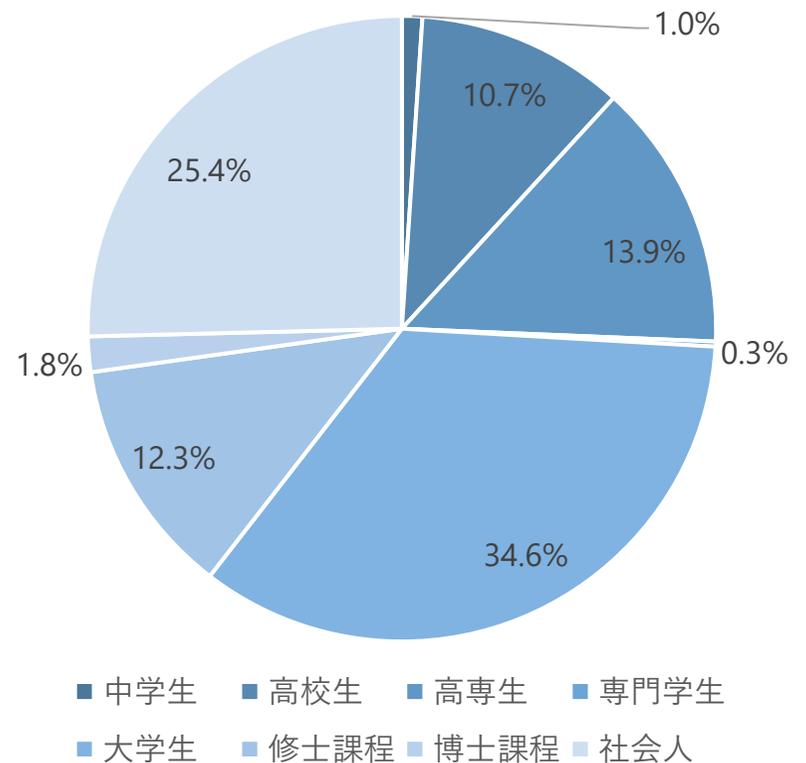
- 20代以下の人材が9割弱を占め、特に20代の参加が全体の60%程度となった
- 全体的に幅広い属性の人材が参加しており、最多は大学生、次いで社会人、高専生が参加している

年齢層



注釈) 全26事業者イノベーター382名のデータを反映

属性

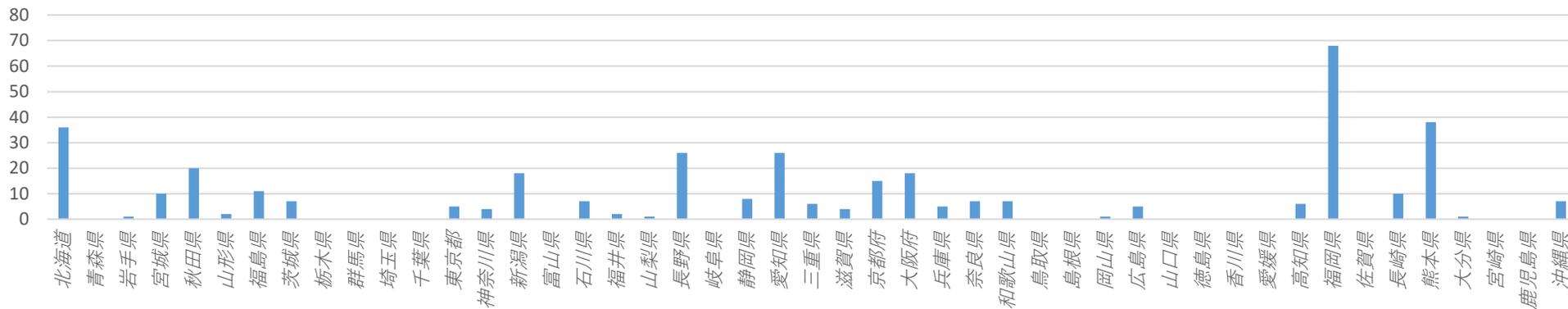


注釈) 全26事業者イノベーター382名のデータを反映

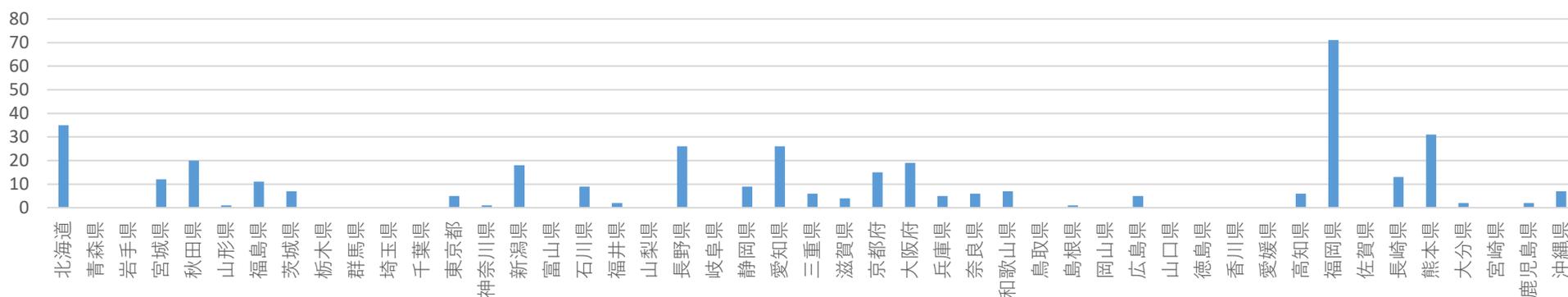
都道府県別の人材発掘・育成エリア分布

- 基本的には発掘と育成がほぼ同一地域で実施
- 福岡県と北海道における人材発掘・育成数が最も多く、中国・四国地方などは人材発掘が不足

(人) 人材発掘エリア分布



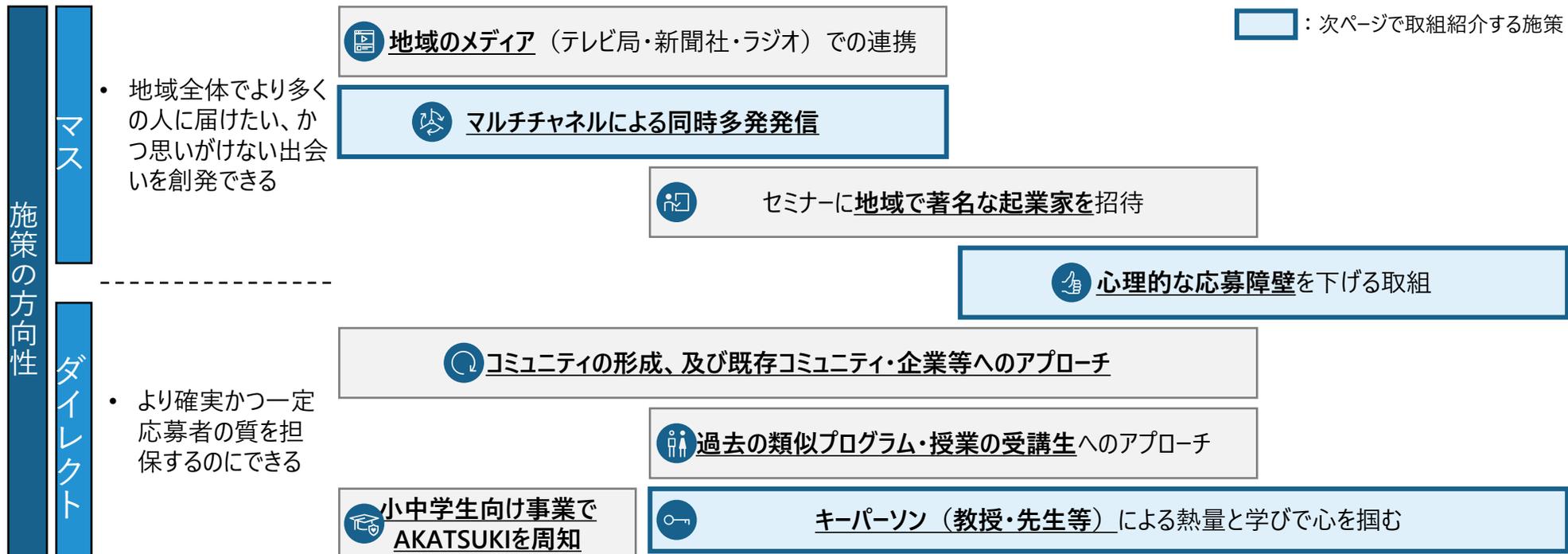
(人) 人材育成エリア分布



注釈) 全26事業者イノベーター382名のデータを反映

人材発掘のプロセス

- 人材発掘においては、認知・関心を広め、意欲・行動を促進し、応募者を確保するプロセスを踏む
- 中長期を見据えた裾野拡大の取組も重要である



人材発掘の効果的な取組事例

- 人材発掘においては、マルチチャネルの活用により潜在層へのリーチ拡大と、多方面からのナッジにより関心度が向上
- キーパーソンによる熱量と、応募時点から好奇心と挑戦因子を高める学び場のデザインが応募率向上に効果的と考えられる



マルチチャネルによる 同時多発信

【複数チャネルで大学内で発信】

- 複数の大学で広報部を通して下記のプログラムのプロモーションを依頼
 - ・学生一斉メールリストへの送信
 - ・学生掲示板（WEB）への内容掲載
 - ・リアル掲示板（チラシ・ポスター）の掲示
 - ・生協、地下鉄、大学新聞を活用した広報

【複数のSNSの活用】

- Instagram、Twitter、FacebookなどのSNSを活用し、情報を効果的に発信



キーパーソンによる 熱量と学びで心を掴む

【教授・先生からの口説き】

- 大学や高専でゼミ等のある教授や先生から直接ターゲットとなる学生に対して、プログラムに参加する意義を熱く語りてもらい参加を促進

【学びのある説明会の実施】

- 単なるプログラム紹介のための説明会にせず、熱い思いを持った育成者を招きワークショップを実施するなど成長に繋がる機会として提供



心理的な応募障壁を 下げる取組

【応募者のレベル別コース設計】

- プログラムのレベル分けを行い、アイデアや事業が浮かばない人材に対しては伴走支援を実施

【応募に係る個別相談会の実施】

- 応募にあたってアイデアのブラッシュアップの壁打ちや内省を支援

【チームでの参加を奨励】

- チーム参加を奨励し、一人では参加を躊躇う層に仲間と参加を促進

AKATSUKI
における
取組事例

効果

潜在層へのリーチ拡大/
ナッジにより関心度を向上

「好奇心と挑戦」の因子を高め、
コンバージョンレート（応募率）を上昇